

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI



「見えて来た頂点」

2018 ARTA DIGITAL Rd.6 SUGO
REACH OUT FOR THE TOP


シーズンはいよいよ終盤戦を迎え、魔物が棲むと言われる菅生での結果がその行方を大きく左右することになる。

富士での 500 マイルに及ぶ過酷なレースで 4 位に入った GT500 クラスの 8 号車 ARTA NSX-GT にとっては、さらなる結果が求められる正念場。富士で完勝しポイントリーダーに立った GT300 クラスの 55 号車 ARTA BMW M6 GT3 にとっては、100kg という驚異的なウェイトハンディを積んでどこまで戦えるかという試練のレースになる。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

The image shows three men in racing team uniforms (grey and orange) with 'HONDA' and 'ARTA' logos, sitting around a table in a pit area. They are looking at a laptop screen, which is partially visible in the bottom left corner. The background shows a busy pit lane with various equipment and other team members.

予選で野尻智紀が好アタックを決めた8号車は3番グリッド、55号車はキツイ上り勾配の最終コーナーからメインストレートをはじめとした最終セクターで苦戦を強いられて23番グリッド。好天に恵まれた決勝日の菅生は予想よりも気温が高くなり、タイヤへの負荷が気になる。それでも8号車のスタートドライバーを務める伊沢拓也はマシンにアジャストを加えた上でソフトタイヤをチョイスしてレースへと出て行った。鈴木亜久里総監督もタイヤカスのピックアップを気に掛けてアドバイスを送る。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

AS「イン側走るとピックアップするから気をつけて」

伊沢「了解です」

好スタートを決めた伊沢のペースは良く、9周目には2位に浮上した。

レースエンジニアの星学文は伊沢のドライビングを邪魔しないよう、

タイミング良く必要な情報を伝えていく。



星「この先 300 に引っかかってくるからね」

伊沢「了解、了解」

星「後ろは 16 号車に変わってます。ギャップは 2.5 秒」

伊沢「16 号車のペースは速い？」

星「17 号車が飛び出しただけ」


伊沢「了解」

星「良いペースだよ、頑張ろう」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



狭く曲がりくねった菅生で周回遅れを処理するのに手間取る間に、一度は抜いたライバル車に抜き返されてしまった。それでも伊沢のペースが遅いわけではない。まだまだトップ争いは射程圏内にあった。

伊沢「ダメだ、抜かれた」

星「了解、(トップの100号車・山本) 尚貴もペースは上がってないから着いていこう」

伊沢「後ろは誰？」

星「後ろは5秒後方に16号車」

タイヤマネジメントも抜群に決まり、伊沢は他のマシンよりも長く第1スティントを伸ばすことができた。前がクリアになったところでプッシュし、後続に付け入る隙を与えない戦略だ。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

AGURI

星「今1号車、17号車がピットインし始めた。ウチはあと5周は行くよ。タイヤはどう？」
伊沢「このペースで良いなら問題ない。ムービングもあるけどミディアムよりは良いと思う」
星「了解。そうだね、このペースで走れるならソフトの方が良さそうだね。
前にいる300を抜いてあと3~4周猛プッシュしてからピットインしよう」
伊沢「了解、了解」

その戦略通り38周目にルーティーンのピットストップを行ない、野尻にドライバー交代をしてコースへと戻り、後半戦でさらなるポジションアップを狙っていく。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA RACING TEAM

REINING

Panasonic HONDA
AUTOBACS

8
zf.com/j

ARTA

AUTOBACS RACING TEAM AGURI

Mobil 1

BRIDGESTONE



AUTOBACS RACING TEAM AGURI

ARTA

一方の55号車は、100kgのハンディを背負って苦しい戦いは覚悟の上だった。
それでもチャンピオン争いを考える今年のARTAは、1ポイントでも獲得すべく10位以内を目指して地道なレースをすることにチームが一丸となった。ショーン・ウォーキンショウがスタートドライバーを務め、少しずつポジションを上げていく。

安藤「リアタイヤのデグラデーションはどう？」

SW「そんなに良くはない。5~6周目からタレ始めたよ」

安藤「リアタイヤ無交換は無理？」

SW「交換が必要だよ、絶対。4輪とも交換が必要だ」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



マシンの重さもあってタイヤに負荷が掛かるため、タイヤ無交換での逆転は難しそうだった。24周目にピットに呼び寄せ、高木真一が代わってステアリングを握る。マシンコントロールに長けた高木の腕で、なんとかポジションを上げたいところだったが、ウェイトハンディにマシンが悲鳴を上げていた。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

Fireflex

安藤「P21。前はタイサンのアウディ。ギャップは15秒、ラップは23秒4です」

高木「最終コーナーのリアがキツイなあ。立ち上がりがオーバー」

安藤「残り30周で前10秒以内に5台。22秒5で走ってます」

高木「タイヤは左側が結構ツライね。最終のリアがヤバい」

走れば走るほど、厳しさは増していく。

それでもなんとかポイントが欲しい。

土屋圭市エグゼクティブアドバイザーも、目の前に見えて来たポイント

圏内に向けて高木を叱咤激励する。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

高木「最終コーナーがどんどん踏めなくなってる……」

安藤「残り 22 周、頑張ってください」

土屋「真一、頑張れ。このペースで行けば前 3 台は食えるよ！」

安藤「P10 のレオンまで 5 秒。前は 24 秒?25 秒台です」



レースが残り僅かとなったところで、クラッシュが発生しセーフティカーが導入される。GT500 クラスも GT300 クラスも一旦はメインストレートに整列し隊列が整えられる。ギャップがなくなったところで、10 位がいよいよ本当に目の前に見えて来た。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



安藤「今 P14、96 号車が P10 です。ツライと思いますが、前 4 台は同じかウチの方が速いくらいだから頑張って。1 台はピット作業違反の可能性があるので、あと 3 台抜けばポイントが獲れるかもしれない。残り 10 周です」

土屋「頼みますよ！ お願いしますよ高木さん、1 ポイント！」

高木「はいよ？、頑張りますよ」

だがレース周回が僅かに足りず、10 位のマシンを追い抜く前にレースは終わってしまった。ポイントには届かなかったが、それでも大きなハンディキャップを背負った BMW M6 GT3 のポテンシャルと ARTA 全員のポテンシャルを全て出し切ったという思いはあった。だからこそ、タイトル獲得へ向けた思いはさらに強くなった。

安藤「お疲れ様です、P11」

土屋「お疲れ様、真一。1 ポイント獲れなかったけど、お疲れ。ありがとう」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



高木「すみません……。でもこれがこのクルマの限界だと思います。100kg 積んで良い順位だったと思います」

安藤「高木さん、お疲れ様でした。ランキングはまだトップをキープできています」

高木「次頑張ろう！」

安藤「そうですね、またオートポリスともてぎで2戦連続表彰台、行きましょう」

11位でフィニッシュした55号車だったが、レース後に危険走行でペナルティを科されたマシンがいたため、繰り上がりで10位となり1ポイント獲得。まさに最後まで諦めずプッシュし続けたからこそ得られた1ポイントだった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

一方、GT500 クラスを戦う 8 号車も、ステアリングを引き継いだ野尻が好走を見せ 2 位の 12 号車を追いかけていた。狭い菅生だけに GT300 クラスのマシンに前を塞がれて苦しみながらも、前とのギャップは着実に縮まっていった。星「路面温度が 5 度くらい下がってきているから、ソフトタイヤの方が合ってるよ。前のギャップは 7 秒まで縮まってきてるけど、後ろも 3 秒台に入ってきた。前の 12 号車はエンジンの調子が悪くてピットインするかもしれないから、追い上げるよ！」

57 周目には 2 位に浮上し、首位をいく 100 号車とのギャップはじわじわと縮まっていく。そのマシンをドライブしているのは F1 王者ジェンソン・バトンだ。

そんな矢先にセーフティカーが入り、ギャップは帳消しになる。F1 王者とはいえスーパー GT 初年度のバトンにとってみれば、極めて苦しい展開。それを負う野尻と ARTA にとっては千載一遇のチャンス。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ホンダ勢同士での接触は絶対に許されない。しかしホンダからバトン優遇で抜くなというチームオーダーは通達されていない。ARTA としても優勝は欲しいが選手権争いを考えれば2位の大量得点を失うようなことは避けなければならない。野尻と星はセーフティカー中に話し合った。

野尻「100号車はどのくらいのペースで走れるの？」
星「ほぼ同じだけど、ちょっとずつウチの方が速かった。
あと10周ちょっとだからね、頑張ろう」



AUTOBACS
RACING
TEAM
ARTA

ARTA

野尻「これ、どうするの？ チームとしては勝ちたいよね。最初からアタックする？」

星「接触だけはないようにしないとね。うちも100号車もポイントは欲しいから」

野尻「そうだよね、ここじゃなければね……」

星「JB（バトン）がミディアムだからタイヤが冷えたときにピックアップする可能性が高いから、

そうなればソフトのウチは抜ける可能性が高いから、そのチャンスがあれば行って欲しい」

野尻「インパルはどうなの？」

星「野尻が抜いた時はエンジンが不調でペースをコントロールしているみたいだったけど、

その後はギャップが10秒まで広がっているし野尻の方がペースは良いよ。後ろのインパルもタイヤはミディアムだしね」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

残り6周でレースが再開されると、野尻は猛然と前のバトンに襲いかかっていった。しかしコースの各所でコースオフが続き、3~4コーナー、そして最終コーナーで黄旗が振られ、作業車両やドクターカーがコース上を走る難しい状況になった。あと僅かのところまで追い詰めたものの、僅かに届かず。優勝を逃した悔しさはあるが、それよりも格段に大きなチャンピオンという目標が見えて来た。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

野尻「ああ？、抜けなかったあ？」

星「でも2番手だよ、2番手。良くやった」

野尻「いやあ？、チャンピオンシップ面白くなってきたあ？！」

星「いけるよ、これ。また次も頑張ろう！」

菅生の魔物に左右されることなく、8号車、55号車ともにチャンピオンが狙える場所に来た。

今年のARTAは違う。そんなところをしっかりと魅せるべき、残り2戦になる。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS

AUTOBACS

AUTO

DRIVE 55

HONDA

BRIDGESTONE

Mobil 1

AUTOBACS

Panasonic

PIT-PRO

Holts

Coca-Cola

PRO STAFF

AUTOBACS RACING TEAM AGURI

ARTA



GRAND TOURISM
THE REAL RACING SIMULATOR

'TORAY'
by Cotton Magic

EBBI
JACKEN

Fireflex

Mobil

BRIDGESTONE

Panasonic

AUTOBACS

Holts

PIT-PRO

PRO STAFF

Coca-Cola

COMTEC

Aral

T. IZAWA

Fireflex

Mobil

BRIDGESTONE

Panasonic

AUTOBACS

Holts

PIT-PRO

PRO STAFF

Coca-Cola

COMTEC

Aral

T. NOJIRI RH+B



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

8



HONDA Panasonic

 **AUTOBACS**

ARTA 

AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

PIT-PRO

8
ARTOBI
zi.com/jp

Coca-Cola

BRIDGESTONE

 **ARTA**
AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA NSK-GT

HONDA Panasonic

AUTOBACS

ARTA

COMTEC
ALL WORK

PIT-PRO

BRIDGESTONE

Coca-Cola

BRIDGESTONE

COMTEC
PIT-PRO

Mobil 1

Coca-Cola

BRIDGESTONE



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

AUTOBACS

AUTOBACS

Tochigi BMW

55



Coca-Cola

Coca-Cola

BRIDGESTONE



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



全国 主要
家電量販店・パソコン専門店・ネットショップ
2,608 店の POS 実売統計
集計対象期間：2017 年 1 月～12 月

コムテック ドライブレコーダー

2017年度 販売数量 第1位



前方・車内 2カメラモデル
HDR-951GW



前方・後方 2カメラモデル
ZDR-015

COMTEC

<http://www.e-comtec.co.jp/>





株式会社オートバックスセブン

ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

©2018 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD